

1 アウトソーシングする業務	
(1) 業務名	野菜遺伝資源の更新業務
(2) 業務の概要 (100文字以内)	農業技術センターが保存する野菜の既存品種や国内外から収集した遺伝資源(種子、塊茎など)の更新。保存する遺伝資源について、遺伝資源の持つ遺伝的純血性を損なうことのないように注意を払いつつ栽培し、種子や栄養増殖体を得る。なお、19年度は当センター育成系統以外のトウガラシ類50系統について更新する。
(3) 予算化の時期(予定)	既存予算対応
(4) 発注時期(予定)	11月
(5) 委託期間(予定)	12月から3月
(6) 担当課室 担当者	農業技術センター 育種開発課園芸作物担当 澤田博正
(7) 想定する委託先	民間種苗会社・農業者等
(8) 想定する契約方法	随意契約(競争見積り)
(9) 想定するアウトソーシング人役	0.3人役
2 アウトソーシングする理由(何のためにどんな役割をアウトソーシングするのか)	
<p>農業技術センターでは品種開発に利活用するためトウガラシ類、ナス類等を中心に遺伝資源の収集に努めてきた。1995年頃より保有数が増加し、現在約2000点の遺伝資源を保有している。これらを育種に活用するためには種子の活力を維持していく必要があるが、そのためには10～20年毎に種子更新していく必要がある。現在は、実施中の研究課題の中で種子更新を行っているが、更新時期を迎える種子が増加したことから、この際、民間の力を活用し、計画的に種子更新することで、職員は、遺伝資源の特性調査、利活用の促進、新品種の開発に専念でき、効率的な育種が行える。また、民間と協働することで、品種開発において民間のアイデアを活かすことができる。</p>	
3 アウトソーシングの効果として重視しているもの	
(1) 県民サービスの質の向上	
(2) 民間との協働による人材育成、雇用の創出	雇用や農業生産の機会をつくるとともに、委託の相手方に、多種多様な遺伝資源の特性を知ってもらい、利活用のアイデアを出してもらうことで、今後の農業生産活動の品質向上に役立つ。
(3) 県民の参画、地域の活性化	
(4) その他	民間の力を活用することで、遺伝資源の充実が図られる。また、それらを利用した新品種の開発の可能性が拡がり、農業振興につながる。